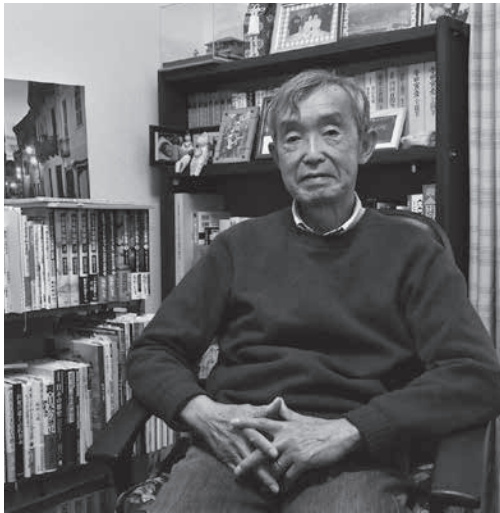




今月は行田外国語観光ガイドボランティア会
会長として、外国の方と市民の交流を促進し、
市の魅力を発信する活動をしている小出正廣さ
んを紹介します。

小出さんは新潟県小千谷市の出身で、市内の
タケダ理研工業株式会社(現…株式会社アドバ
ンテスト)への就職を機に22歳の時に行田市に
転入。技術職として働き、40歳から8年間はア
メリカへ、その後の7年間は韓国への転勤を経
験しました。こうした転勤で海外に渡った際に
現地のボランティア団体が海外から来た子ども
などに勉強を教えているのを見たことや、小出
さん自身が生活や言葉で助けてもらった経験か
ら「自分も海外から来る人の助けになりたい」



ユニークな観光ガイドを目指す

小出 正廣さん(持田・76歳)

この思いで平成29年に「行田外国語観光ガイドボ
ランティア会」を設立したそうです。

同会は、観光ガイドとして行田市に訪れた外
国の方などの案内をする他、市内の観光やイベ
ントのチラシ、ポスターの翻訳なども行ってい
ます。小出さんはガイドをする際、イラストや
写真などを活用しながら、市の歴史と合わせて
同年に世界で起こった出来事を紹介したり、市
の歴史などと類似している事柄を交えて紹介し
たりと、外国の方にも分かりやすい説明や解説
を心掛けています。これまでに培ってきた行田
の歴史についての知識だけでなく、自身が渡航
した10カ国以上の外国の歴史にも触れたガイド
をする中で、相手の興味を引き出しながら行
田の魅力を伝えていきます。

同会の設立から8年が経過し、これまで2、
000人以上の方をガイドしてきたそうです
が、現在は活動の幅を広げていくため、若いメ
ンバーの勧誘や現場研修などを通じて、より良
いガイドを目指すことに力を入れています。

「敗者復活戦ができる社会になってほしい」
と語る小出さん。仕事で当時の上司から「失敗
しても次に生かしてほしい」と新たなプロジェ
クトを任せられ、過去の経験を糧に成功させるこ
とができたそうです。こうした経験から「若い
人はたくさん経験をして、失敗しても諦めずに
再チャレンジしてほしい」と、これからの時代
を生きる若い人たちにメッセージを残します。

16ミリフィルム春の映写会

- ▶日時 3月20日(木)午後1時30分(午後1時10分開場)
- ▶場所 「みらい」映像ホール
- ▶内容 「キャプテン翼 ヨーロッパ大決戦」(40分)
サッカーを通じて友情や思いやりを描いた感動作品
- ▶定員 70人(先着順)
- ▶入場料 無料

人気のある本を新しくしました

図書館では多くの皆さんに親しまれ、数多く貸し出されることで傷んでしまった
本の買い替えを定期的に行っています。今年度は児童書を中心に買い替えを行いま
した。

- ・ふしぎ駄菓子屋銭天堂シリーズ 廣嶋 玲子/作
- ・怪盗レッドシリーズ 秋木 真/作
- ・おさるのジョージシリーズ M.レイ/原作
- ・らくだ魔女シリーズ 成田 サトコ/作
- ・エルマーシリーズ ルース・スタイルス・ガネット/作
- ・あさきゆめみしシリーズ 大和 和紀/著 他多数



児童図書の棚を増設しました

今年度、児童コーナーにある児童書文庫の棚を増やし、新たな児童書を購入しま
した。

- ・歴史ゴーストバスターズシリーズ あさば みゆき/作
- ・絶叫学級シリーズ いしかわ えみ/原作 など

行田歴史系 372

資料がたたる行田の歴史

72

火災に対する備えの歴史

春は空気が乾燥し、火災が発生しやす
くなる季節です。こうした時期に防火意
識を一層高めようと、毎年3月1日から
7日まで春季全国火災予防運動が実施さ
れています。というわけで、今回は火災
に対する備えについて歴史を紐解いてみ
ましょう。

現代のような消火設備がなかった江戸
時代。火災が起きた時の対処法といえ
ばとにかく水を掛けること、そして建物火
災の場合には延焼を防ぐため周囲の建物
を壊すこと(破壊消防)もありました。行
田町の記録「要中録」によると、嘉永4
(1851)年に龍吐水という消火設備が
作られたとあります。龍吐水は大きな木
箱に手押しポンプが付いたもので、中に
水を溜めて人力で腕木を動かし、水を汲
み上げて発射する仕組みです。行田市域
では明治30年代まで、龍吐水が主力の消
防設備でした。

明治40年代になると、龍吐水に代わっ



手榴弾消火器(郷土博物館蔵)

て腕用ポンプ車が導入され始めました。
星河村と須加村では、明治41(1908)
年に腕用ポンプを購入したことが記録さ
れています。明治43(1910)年に公設
消防組を設置した持田村でも、腕用ポン
プが導入されました。腕用ポンプは龍吐
水と同じく人力で動かすものでしたが、
放水性能が向上し、移動のための車輪も
付いていました。同時期には、ガソリン
エンジンを搭載したガソリンポンプ車も
登場しました。さらに大正時代になると、
忍町の公設消防組では蒸気ポンプ車が導
入されました。これらのポンプ車は昭和
初期まで主として使用され、昭和20年代
以降はより現代的な設備へと切り替わっ
ていきました。

最後に、一風変わった消火設備を紹介
します(画像参照)。これは手榴弾消火器
というもので、「消火弾」とも呼ばれていま
す。薬品や砂を詰めたガラス球を火元に投
げ込んで消火する、初期消火のための道具
です。消火液を噴射する消火器より安価だ
ったため、昭和初期まで広く利用されてま
した。戦時中は空襲による火災への備えとし
ても使われたそうですが、果たしてその効
果はどれほどだったのでしょうか。

手榴弾消火器は、郷土博物館で開催中
の博覧連携展示「行田市のうつりかわり」
で、4月6日(日)まで実物をご覧いただけ
ます。

(郷土博物館 岡本夏実)

私の作品

俳句

南河原 今村 文女
彼の世にも句座あるかしら兜太の忌

矢場 島田 健治
篝火に大蛇のたうつ里神楽

荒木 高澤よね子
一病と生きて余生の冬帽子

小見 川島 盾子
雪晴れや紺のスーツのしつけ糸

藤原町 斎藤雄次郎
寒牡丹色なき庭の色となり

富士見町 森 節子
床に伏す夫に湯たんぼそっと置く

緑町 松林 真弓
またもとの暮らしに戻り七日粥

下忍 荒井 王子
仏壇の夫と語りて冬籠り

長野 石川 順一
除夜の鐘巳年に託す少数党

小見 三宅 典之
遠き友スマホはみ出す初笑い

谷郷 羽石 芳道
築山の紅梅香る喜寿の朝

富士見町 江利川敏夫
寒行を遂げし僧の背後光射す

旭町 大川 恵子
日脚伸び空きしままなる猫の席

持田 中野 華泉
松明けのシルバーカーのうす埃

樋上 吉澤とし子
九度目の巳年と記す師の賀状

門井町 塚原 武夫
摘みたての苺抱えて朋来たる

馬見塚 中野 一郎
初みくじ吉凶問わず大はしやぎ

門井町 石原多美代
虎落笛ぬくき厨で聞きながす

(三沢 一水 選)

○俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日(必着までに、住所、氏名(ふりが
な)、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報広聴課。なお、一部添削して
掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。